

市制に移行した野々市

～区画整理が発展の基盤～

日本不動産研究所 北陸支社
不動産鑑定士 神田 勝廉

「加賀百万石」の観光都市として全国的な知名度を誇る歴史都市「金沢」の中心部から南西方へ20分程、車を走らせるとコンクリート打放しとガラス張りの近代的な建物が目に入る。

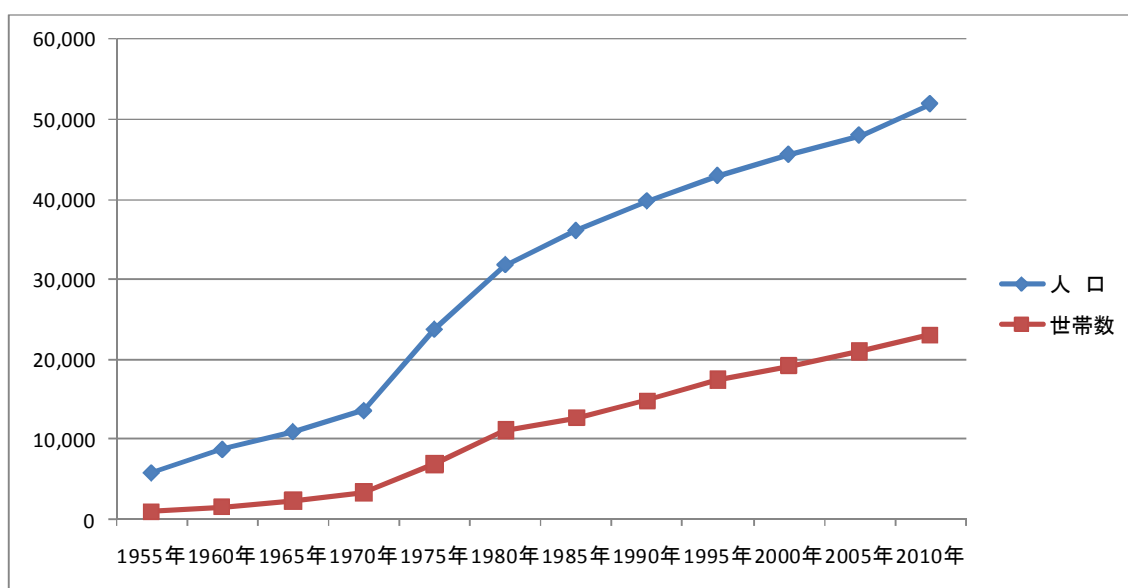
日中には、コの字型の形状を生かして配置された南向きの中庭の芝生の上で、近隣の親子連れが戯れ、建物1階に配置されたイタリアンレストランは、平日、休日を問わず、多くの人出を見せる盛況さで、夜間には、ライトアップが施され近隣店舗とあいまって賑やかさを演出するこの建物が、実は市役所庁舎であることを聞かされると初めて訪れる多くの人々が驚きの声を上げる。



「近隣の店舗などとマッチしたデザインの市庁舎。コンクリートとガラス張りで、にぎやかさを演出する施設でもある。」

平成23(’11)年11月1日、石川県内において県下11番目の市が41年ぶりに単独市制として誕生した。「野々市市」と表記上は市が重なるが、これで「ののいちし」と読む。

その歴史は古く、市内には約3,700～約2,500年前の大集落跡の「御経塚遺跡」や白鳳時代の大寺院跡である「末松廃寺跡」が存し、明治22年の町村制実施に伴い、野々市・富奥・郷・押野の4か村が発足。大正13年に野々市村が野々市町となり、昭和30(’55)～32(’57)年にかけて、一町三村が合併して新しい野々市町が誕生。昭和40(’65)年に人口1万人を達成したあと、町の発展に伴い人口・世帯数はともに拡大傾向を続け、平成22(’10)年の国勢調査で人口5万人を達成し、今回の市制施行へとつながった。



「野々市市の人口・世帯数の推移」国勢調査のデータを基に作成

この人口の拡大の背景には、市内各所で行ってきた土地区画整理事業による、宅地化の進展で住宅地、商業地が増加したことが主たる要因であると考えられる。また、増加する人口に対応する福祉、教育分野等の各施策も貢献した。特徴として、市内に金沢工業大学、石川県立大学、金沢工業高等専門学校が存していることから、20歳前後の1人世帯が多く、市の平均年齢が39.7歳と県内で最も若い。学生が多く住むことから賃貸住宅が多く、狭い市域に人口が集中しているという特色も有している。また、生産年齢人口(15～64歳)が全人口の69.6%(平成22(’10)年時点)を占めることから、若く活気のある市であることが理解できるだろう。

本市で完了あるいは実施中の土地区画整理事業地区は28地区(個人施行4地区、共同施行8地区、組合施行15地区、公共団体施行1地区)あり、とりわけ、平成11(’99)年より実施中の中南部土地区画整理事業では、事業計画の中心となった冒頭の新庁舎は平成17(’05)年1月に供用されたが、この庁舎供用の前後に多くの店舗(アクロスプラザ野々市

ほか) が集積し、現在の街並みを形成するに至っている。

また、市縁辺部にはイオン野々市南店やイオン御経塚などの大型商業施設がみられるほか、国道8号及び山側環状道路沿いには、飲食店・衣料品・日用雑貨品・ガーデニング専門店等の若年層向けのショップのほか、大型家電量販店や食料品スーパーをはじめとする路線商業店舗が数多くみられ、隣接する金沢市、白山市等からも多くの顧客を集客している。

市制の施行に伴い「町」から「市」という表記になることで、新たな商業施設などが集積する「野々市」の「市(いち)」に因み「市場」のようなまちとなることが期待されている。